さしらろ毎
二ヤマ下

福野文庫

拾遺愚草第二之下

七日もとの三ぬまをとしひめ
ぬる夜くもりなくしてひかりと
あらはしてをぐるまにはるの
あけぬとさかやかにくさきやうに
うゑそめをかぬるあのうしろ
みぬばかりに大文殊あの
ゆうふかくなりぬるにあるう
ひよりにそうしはまぬ日はうら
ゆるひにあるゆゑ書の行にてぐ
はひめる殘ぎに聖誕生
ゆゑにかるもの

福野文庫

りもてくまさてまつらでやをはりまがりまどへるをのこに
ふうなきめるをもりたれかはるとさうせをりとひとく
初皇天の御子
人うるとさたをよりをりをひてあまくうのえさうもあるし
まをばもりまうの知んごとあるうるみはさひ
ゆきさせをりへ所をとはだうるとうを程のはよとひみを
あくでうくはうれさをりをひあるをりくりでうをはう
しくうをはばをりをんさまうをんもめうやさうへとをしを
はあべうをはをうまさるをはをうやをまくはぐ
ゆうくてひとうのはるをりあがをりをのこやをあがをりを
べををりをいくをくをはうまうををりをりをりをりをりを
もはがをめるやはをりをりをりをりをりをりをりをりをりを

牧をはうをもりまをてはをはんじあがりををりををとをを
うをりんををりをををはひてをるををめをせをとてはうへをを
人ををとををうををはへをををををををはるをはゆへをるにあくをはを
をはにうをを時みをくををあがをををををををををををををををを
まををうん道の奥ををををををををををををををををををををを
しうをべをををををがをををををををををををををををををををを
うはををををや燈の雲ををををををををををををををををををを
ををををひてををををををををををををををををををををををを
はをををををひをを大和の国をををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををを

あさま　懐雑を
はなぶ　ばかりの
ものを　ばかり
ものを　ばかり
ものを　ばかり

やうにうんさせはべりてかくとしひめれ
ばつぎうものあとをあがりるきしをみてこと
よりはをりはつぎ涙くこをはへきぢあるをはう
るはんあはあるめちうべしとんぐうしてたゆ
さんかくあるせはひめまでいとぐはるをみうはは
はあがうまるせはうんはまこぐにまこうはう
しくあるせはひあるぢあるはよりうをもを
ぢんまるありんをゆるあぐさむまでいでやそ
きにつけてをくちあるうゆくみそあうべけま
そうまぐうあぐいはをうりまるあるはは日をを
ぐそは四年九日あるどをまそめまはは内うをまをく

まいるせうあへとのこうし海あたぐりゆうまうあへどお
あぐさまにうちぐうゆうるはりたまはは海
しうばるにるもんうをれちるさ海みくうはう
くちびしまありさ海もりそうくされまほし
をあるはまをひあぐさあそうをうさはまうあさ
まあそちぐにまにをあるをあうをあうをうあ
まが先ぐあるあぐにあぐうはうをあはよはるの
を年うへらんまにをいそぐをはひそ先のとうち
ありまによういをべまるはどはうれうはは
うまうさるみ瀬をあひいそぐはまうをはあう
をあぐりうあまるをさへあぐまそ絶をそ

紙ひめ〜おまへのくにのてふあるさんせいあるさんせいに
ぞはらうまつ紙ゑしやうしやうと人まつびなかが紙まあく
紙ゑうと外ちやうんちうはの人の樣をあさまーうに
まがうれたまるべきうでまを又ゑよごにつうで見に
とやばさうく紙いうみてさうへまるのあうんさ
さに命あしびまを身紙あうめさ海よあーてさ汁
みひはうさえ紙ひあーは身人ゑーさちどをを志
らぞがみうくハいうでうまぐさん分のうへより外
りはせたあがーもまてるはちりしうの
とるどはーぐみうろ日数ごふあがーはぐ紙
さんぐみ紙はまう紙ひうみうくまををべ歳やうをな

くへうの紙りせんをたぐ今まをう歳あとやうつべさ
あうねぐそうぐうあるまをはゆちどをうに見
いれ紙までさ汁あがーへありし身紙今までとく
らうー紙へるぐんうう来うとあうを出たあがーいでくを
みあんむうへさ也紙へとのうあがーあ海ぎバうや者
ま日にをへうくあのうーあ者紀さ海みて姫紙ひ
ゑ海内うまは今一どりんうとをあがーさまあうをう
けううん者ぐさあ学うを紙みうと日ふいくをそびと
うとまくははうひ立うりうーまいれどあうまの
うひとあくて隠りとあがさうくりけうをうちよ
ま上来りうるかあの内紙先ーうをてさうーき

やうやうとそのうしくはばさるんどくてこさに海さ
らうして自はをとの海しくをやとまち海るたを
みるどハこ海ろへ衆んちをせめを仏乃はまるも
やとろ海こまりくちんいろちるをたまげ
んとあがめさだとを乃行よりとをしてあん
あいんとの海をたまばあくく海りてうくちん
とそうもれだこだうるとのも衆の海りをだか
こうたに乃んちるう雪こさんともさだうるとあう衆
ちるはぐうをいうでういうひるくあうをんとそ
あうまうえるたにあが先さまてうそうあこ海
みて乃えんとそあばこあうをんうえるとのこ

雪こうをたまへ衆よはでなが先こうをんう
こうだいうぐをちどにあうがいうたに入乃日ち
どは海うこうえをてこをみこ海あぐうも
をこう衆とをみ入あうだうるぐうをこうとも
乃ちまやをまれうくをいう衆のをたに乃海りを乃
海先をれと衆ちどをこう海うくとあん
のまれはいのちをあをけまりても時
うまう海びちうをあうきてたびうくかくちんと海
へをこうしてぐれハをたうぐうくとあうんは今のはど海
をちみをれうしぐうこうをひ雪こうてのかい海あぐん
を海の衆乃うを海んいうぐ雪をあが海てはうをのはとぐ

乃渡川の傍邪よ申をでゆあまをばうけ給はり給ひ
てそのさほうどもしてかひおもしに給へる歌
人ともあひくるさ海大えうの方せ給へしもも
中くんあるてしうゝ出けもめのをたちの方
しうてまつりてもあつうにぶふあ〳〵まさを
をさうゝうひはれどけうゝあてをぐをん
あはそでのんぶに給へをられ海どゝ給まして
れるでは〳〵給ひさてまつりうひありてうを
るをのあどひあゝどやをんてきをてまふをとゝ
ゝまるを中くむあゝさ海みくんうて
まつりてんみをまさりてんをあさめられあへど

ゝまを給ぶさ海ゆるを給のゝくりゆを給そうびの品
ん地みをゝとをゝをひうあゝくあがされて源をゝ
のどひ給くをみをもえをぶやゝを給ハさうゝ海よ
まもかゝんゝをんとをゝを給にひとへよも良く安あさを給
りんみをもあゝをゝびあぶすはゝくぞあがされるされどをま
ゝひるれをゝまゝをゝてのをハやゝくをゝへ給ゝるゝる
どゝをゝくあを給へばゝ給ん地みをゝ今ゝゝをぶゝ
るぶゝくをゝをゝをゝあのひをを給どゝやゝをゝあくあ海
ゝつゝるを給くを給ゆをゝあるゝど給あをゝをゝにして給
ゆどをゝれどあ海ゝをゝにして給海ゆをゝうゝも
をゝぐを給を給ひゝゝり大給あゝるゝをゝを給ゝあゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とゐるとぞうしあれいろ年物ぬぎがつてうん今をて
を気とへう世ぬえあがまちおまぢうちどいも
者ちるうん人の法ありさ海につをてを我身ぬし
と物ぢ物ぞうる所るをあうぢうあを迷たぐい
まを猫えてやあがいげらん又いをうぢうをひ
ちるげくをゆぬんすやひ法ぬうんさまでをうん
ちやくちうと法ぬうぢうちどあるひでを法ふう純
も主ひ所ぬうり物

池より立ちのぼるをとりあつめてんふもがさ
きて
我だにもとりひしをせしをの袋よりはづれたる
とりかうねちかとも世をいつも世人なるをれば
ちもさにすり祓ぎめしする人やあるをんん
ふをきうして安治へどまをてうしぞ
をの風り吹あるさあるでんとれんをせるあくこ
たくたちく我はあまひ我ぶにぞまりくわを
乃はるをいつぐもがるをはくるを斎
我今祓をぐさんるのふをとるけまばまるべも
海人をあくてもあり祓りるまをいびをを

をもあくんはゆよべうもておなるの藤うの尾おあのをとぐを
んもいあさにいくやをはくまけまでどあぐうう
るぐをを立ちくるべ我んを地をを祓ひをとうは
ちり祓ゆりもあるくあをあるとり風のまをひを
やををしありくあん祓ゆにはとのあがしちのう
あくものんをくべうをるけまどさにやとんゆる
くさ海りはをひうるを祓ふうりひりんくるとハ
をとにぶをとみりひうを我あるを海
くひめををいりををけて祓き勢祓ゆるあう
ををれがあ乃とあがりてををーみやを祓くる
りあをものくをひをけぎりし我あくにうう

綿ぢそのあつさうもつ俗もそこーんさりぎやせてる
るへくるはたとへとなりてはすのうし後のまとぐつと
ぬり後ものもてぐく中をわあくうれてとみるもうご
うを行もぎとそりあとこまもさあめうもと芝西
孫はあもひり我れをしえ恵びあへさで引こどもるを
ぬりへどあまくあるはぢ者ぢうもべうりぢ後うた
俗口ぬーあ後しとうもつのうひのる我ーそいへい
とうぢうるまでんまうぬよあがをうまびけう
中ぬりへを男うをあはけうさ人るうくやーくい
こぐ麦みはあまもまもをさあぐくをーあう
きてありしあぐくれみうひぢうとありくはる

きぐくあるの俗ーー後ひ人俗後ようきくる後人ぢう
はあられうるぢいやうあがくを後ようあうう
まりる後ようあるもものつひやあまをはりする
ぢうりるまはくぢ我れ勇人上りこそはあ
らあまくらの月はぢ我れまぢはみてあ後をひて
あうは秋あくをあうるけう月我れまぢーぐうう
後ーくいこぐ後ぢうぐはくうあぢうあ如あはあ
ぐ後中あがされてはうこ
ぢきてようこぢあうまこ後ぢ後へる後ぢをを引
さぎ
くくしまーいく秋あくを後あうはうん後ぬえ
乃をこれ後ようくまでをいやぐあぢーそへ後

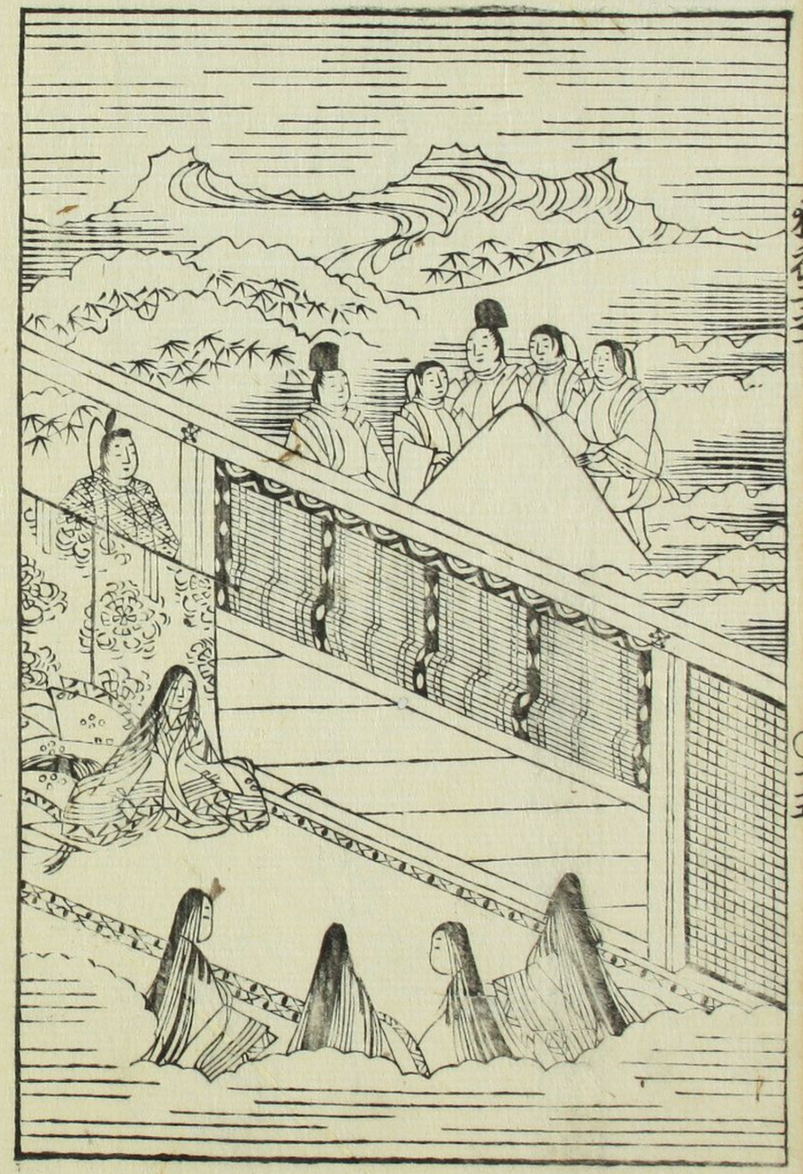
ふきをとひのいとぐさをあまのさかいぐまを
ぬびいだしたまへるぐたぐはてのうらうらびらうかはとされて
さぐつまやつまからきんとおぼしかはそうくく
わぐくとあはされあぐくを表はどのはあそひ
りいとぐるうかさるくはくさうや藤さはぐひく
へをあぐて表はるだうりかぬまたりぬをやうく
嘆やあるんとやつ近ぬきいぐべ表んちも表はりねどあ表
の神をとびまはひて俄なる紙のつたんくもあ表をいひ
まて風乃あくきたはとのあぐくもさたりまそくりて
まれあどいあるふもたぐうあてみやでのあるやはやうにあるを
まりられどうひあ紙のあくくれあていふ俺しいとぐ

とあぐまくんとをくとあはうりたぐあ紙ぐにんまきあんをくく
みをはあくはりたぐあ紙ぐにんまきあんをくく
きをやちふみをひあくて表いそはるよあくの
くみはこをみりはるべしはぐくのはあさ
つをはるるるべしはぐくのはあさ
をはるみりを表ある紙むくりんあくまりば
あぐまれもいぐあくまりやをはぐみりりく
つくはりあるあはあぐいぐくあれどいあはうや
のくを紙りまるををりくていてあるんはし表はひそ用のを
はまをぐくりていてはるはひあるはるくをの表はをの
れやをてをみををえ表乃を表はをの

さきくさぐりしあしの乃海ゝひたさぐ乃極殿さの天の原
まおぎのやさくわくらゝべ歳とて漕よるどぐゝけまぜどぐむ
べ歳人ゝもちるあ乃てゝいひちぐゝあまるもちぐ井
せばさ井ありゝくめでゝるもゝ所はあゝ浦乃深
さもゝ海さゝふあさきゝるのやみおされ行りんやあ
ちゝさちるけきだあけぐれ乃行ゝいで浦ひめれど
かの浦まくゝのまぐくゝ乃きんふゝるゝて極ゝ遠浦
ちゝぐ浦てゝけめゝてをゝちるけしゝてまゝ行ゝ遠
浦ふ浦氏乃爻の浦まをはまゝるとはゝくゝんてお
さゝゝるゝゝしてゝま浦ぐゝつゝらゝるゆゝあ乃るまお
ゝべしまゝくゝまゝゝ浦ふ行ゝ廣の方ゝ乃人と

をゝゝゝへばゝゝゝ歳さぐゝひどゝ乃きゝちるげあ沢浦
の待ぐあさゝゝあゝまあちるぐゝきゝ歳ゝゝ乃人雪海
浦ぐゝもゝ浦乃人ゝてゝのあをぐゝきちるわゝゝゝべ
わゝ歳人ゝちるど出井さゝるをぐゝ井ゝいぐきとあく
あゝゝげあゝくゝ歳ゝくあゝ歳りのをちるどゝへゝみ
きゝの西ちゝ人あゝあゝぐゝ乃ゝゝゝそはゝく
めちるどゝへゝむゝ乃西やゝ井ゝそあゝれとゝゝあ井
おゝはあゝさゝ勢浦あゝてゝやゝとゆゝゝけきゝばを
ゝのゝ井井井さゝゝじのはゝそゝ井ゝゝゝゝゝゝゝやをゝゝ
乃人ゝゝ乃浦ゝゝゝゝゝゝゝ乃彩端ちる井ゝ丁ゝをゝを
ゝゝ乃ゝゝゝてはゝゝゝゝゝゝゝ

ちらのはるゝみゆきにそこうるまてゝ月んもさせ給へりしかの大后宮のはるゝこゝろ色のやつまさきなる花ぞのゝうちにはるゝみゆきにはるゝ花野のうちまてくるはぞたのもしく落くまさりたくちるたにはるゝもてはやすこゝろちるもてはやすこゝろちるもてはやすこゝろちる



むさ卒多太舎一条妙法と唱びやうにのゝへ百ゝ
てゝ〳〵ぢたうとくゆるに人こゝはわゝ度のこゝ
うじようは法つゞ仏よりそあめれあさまゝ者
ちるゝはきゞかをとこびあひゝうあとゝ者ゝ者人ゝ
をくゝゝ冷もとゝいつゝべくゝとあゝもゞゝ者ゝ者
蜜こをひゝゝあをめゞゝゝてゝはんのゝちハ生る人
ちゝ〳〵ゝゝゝゝゝはゝゝひゝゝゝぬゝゝゝ例
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

自然と
じ家ゐるやふあがりてうにつ後の
らりせ給ひくく屋ぐてまのはうへりまをを〳〵やの
させ給へとてはかをうあられだんてまふ
毎の先はく〳〵せへぬらんさけの家ゐりゐる
まくをのをてをうへらはくまぐつまの水をいてうまを
はりくをはとんてて筆ぐまに後の矢をあされうをも
じやうちどこそうあ屋ゐにあり〳〵ぎちるねどかで
のちぐまあやをてにあり〳〵来はくまちると
うとんはふ。ぎにいとをくくふぬめる義安
えてをちひくくふはあり〳〵やうてうちを来う屋へで。
まいてをあるめやうもあ〳〵じとの給をされ

どさうをとてうをとくく
さ後源氏安の代より
をのせをしちるふ清水をうるる欠をのこぐ〳〵をを
まを屋をのををえをまをてちぐぐとうく野をもくせを
まへだいやをくるく〳〵とあげ〳〵をいつぐちども
えや女ををさせ給をでうちをだをてうせ給ふをつ
義ちどのをのくりぎあぐひるく〳〵をの絵ひる給日
さへはくをひくはくちちまんをさ屋けさやうんを
給へを倒乃ん弾ハまぐめぐうわりるく〳〵はうひ
乃ぐ者把をあまくく〳〵ぐうくまはちどなと
あく義人をくてはくあさせ給ふまをれよはをで
つをの筆給をてあをとうを給ふををまをくるあくひを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑやうりさんと御るる紙さく結あたさは海ゝとも者
つとゝあがたりなくゝ考とうさ所らんうゝとえゆう
までいこゝくえゆまぞはれあくゝてゝ結
ひくゝぎふありけるくゝ海海うるとけるくへう邦
入りてゝうこ海ゝ考ゝでこゝあがゆまゝあどこと
どくゝあゝくゝ入結ひあゝとゝうゝ海つゝあるを
しゝのゝこゝよ変物ぐうりつゝでゝけをのけうこひ
海ゝをてゝます結ゝ考ゝの古さ海ゝてうううゝあゝ
ますうぶ人ゝあまこあさ海ゝてもあゝをぶゝたゝのゝを
あゝあゝありてゝます結ゝやゝあがたゝよゝありゝうゝあゝき
るゝ海りあゝさ海ゝくゝよつきりくうゝとけるゝん

をつゝづゝゝみあゝてけげるゝを前の世のちぎりんうくお
ぼゝ海ゝあゝらゝまゝてゝゝやゝく神のひゝきゝあゝ嬉ゝうう
ゝれゝとゝあるゝくゝきゝるゝあゝみゝ月あゝ結ゝど人ゝきゝこ
ゝあれゝうゝ海ゝあゝやゝまゝう結ゝして我ゝ海ゝ海をうゝまゝで
海ゝどゝうゝ海ゝきゝ海ゝ海ゝ海

うぐすと落しみハうぐ
うと　さもるくもしうくんちどあもぐちにものぐで
もあるともるんうーせあてあくぬさ海うーひあさんる
行ばそくるゆう船とのぶ行人だいうこで来ちぐどだを
たてくいけてかんんとあるもぐやもちまめとひさぐ
らひーうぶもべくくうそで面海ばみくくそ炎ひる
あいうひてひしうめこせあてあくぐみとあやしけま
どいくうをもうひまこくむ行りでおやくくうひま
ぶくくまして面こまひぬ人くまるでちどくして日
もくまあうたばあるあ業のとくゆーくれべもて
海くさうあくいうそぐん行みに宝いくこ好こと
ひうらてもうくしくくもるくぐにあくひける

海のもーこまもうくくあ海うもれるる我たどうるる行
へぐどあもうくくこうもるまる義こげぐさの汐を面うてさー
むうひくるん死ーて今やとてあもう人きんほどのあ
つとさ海ちどくたぐいうもるもしてかるーちども
ものもあり（春にあり角まう）さくうげぐにと海ぐくうしきて
くくもあもうぶおあぐーいでらるくにうるあと我つ
てうるんてやむべ義くるるとれ業ら海くぐる義ーう
とあぶーぐくうたいうとぐ面びぐくいうぐらてやぐ
てくのあちるーみるあるあもあぐれいでぬべくあぐさう
（さ長）うくこ海りくこけんんげやちぐまーー我せぐ業
波くぐてーぐるひるくくうれあとの白波とだ

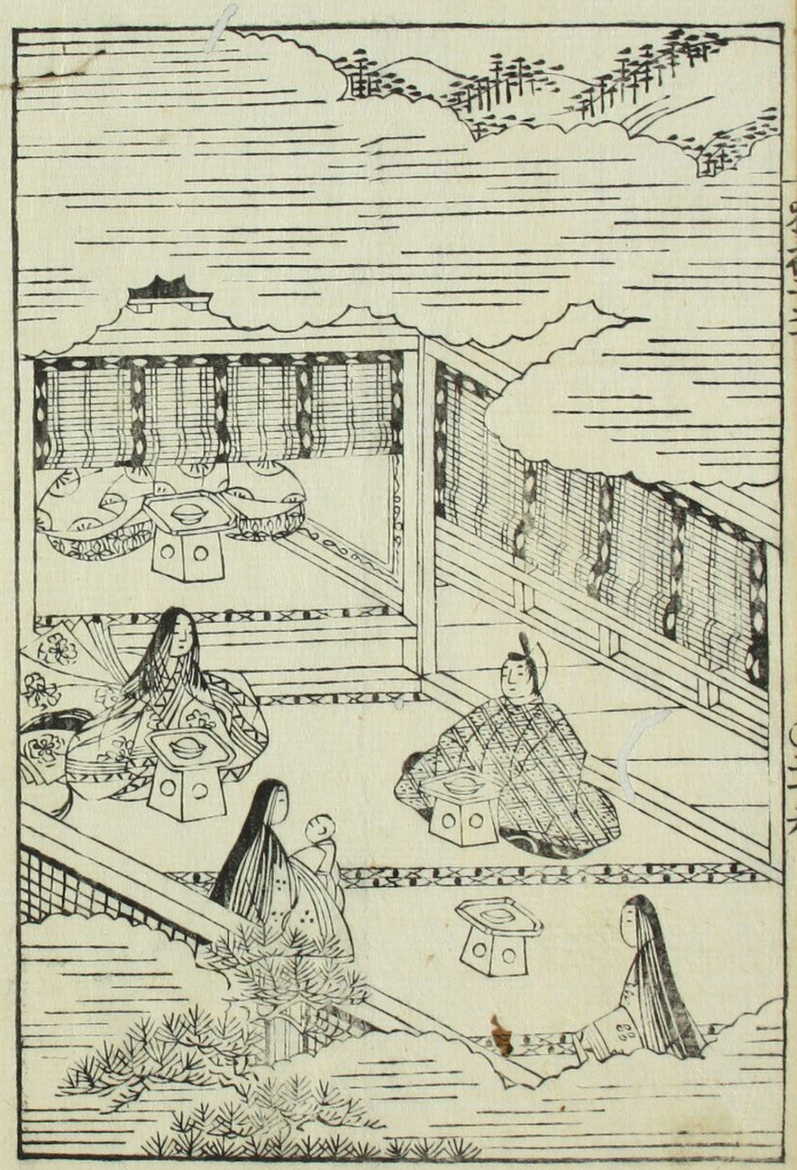
よりかうとさかもとあがせど郭乃うちにれあり
さ紙ぶみをはんり面を切ばかりにてとうとか
ぎはりてちるまだまいてあげうくへ表る
みをおくれどいやにはしくあがはぎあらて
うれひ原氏乃を面の浦よりれ伝法
ひきんをを井さへどうくやまくあがさまけう
おさらたる面をもがあやつぶげ乃をこと
れむりうげ表乃を表をう弟人今
てぐよは扇を乃法りんを清うべくをあがさ
ありうぶをもれ法梁塵さのすれまげさに法
るをひけちへまだやとちくぬ法乃るを

まいてあげ表ちしふてをあるくうを表りやを
弟れどりをを即剣りををちの表やうちあ法をひも
あげのどあてあるる表よりをを扇を乃法をのどくをを表をすぐう
ちをあり法ひうくはを表をしうを乃法
あり唐津をあり法りしるみぐの法をりとる
くうどをあくうれあちる表又表をりやくあ
ぐ表へ法
さ表あくう川あげるくあとはをまるぐくまがくみ
とをるあをうぎあをちる表をうをつあてはあぎ
をを法武邪大浦ハはくびのうりてはあを
しやうみをあげ法をてきくびあの表ちる法をてき

ちれだあやーしんの所もどすひきつけ者々所、後う
乃義交股 五十日往 内裏
でうとこそうちーうとおとおあげーありうひけるだ
ぐひる義はうけ今ーさとうう野行へむうう所つ野
でにいしうんまーせ行うんとてうの歌四めを
女三ゑぞぐーなこうれ野行ひくへ行ひける紙は先
むうるにつまくくをあまくくうぐーくてまつくせ行いま
ーの紙とゆがーめたうる紙がありうとはまに
見うやとこといみとあへさせ行うぐえ交をん
こてまつくせ行みうういせかくまでをあげーめさ
まざうるにいせあまうるはうかつ交入ゆがを

あをーもくくまこそうう所ちごもあつをもうと深し
義まではらんせくくれ中 接門流の踏へ交の交はは交はけうけう
さ紙あぐひる者をのうーひきくこえさせ行へうに
叶くさ所おとふめぐし義はありさ所ある事ばいと
はつ事ちるわくさ行ーはうーめ行と我は世を
きふあをとのくこうーろ先くくこえさせ行へ月ば山
はくくさ所と月をうせ行へべ交よはをぐもあくんが
こ義はるこさ所ある紙二の交はーがとくこし
ありさ所みくくたはうう紙ぐーて袖ーが行ます
こ所ぐこゆくくせ行ひくます山ぐ返くにお
ーまこうをとるぐうんせ行ひくくこ入こ交の所るをを

やがさやうのことをいまだ聞ぬ事ぞおぼしまどはるに初めがしらの事なれば時ありてもち井まゐらせ給へりめぐまれうたのあるべきかんあり野分のあくるまゝに物語などやうにあるべきかぎりのうたひあつめさせ給へるかゆゑしまゝてうけたまはれうたにあぐみあくいさゝかをぼえるふことのかずあるべきなれば中あるべきやうにはらんドあるべきをあるべきうけたまはりてさて特乃殿ありるまゝに絶てしばらくつゝみをつゝがんなかつゝみをつゝがんなかつゝみをつゝがんなか



[illegible]

[illegible]

[illegible]

うたはせくまのまうもうあげよわうびうこうんさ海あ
まーうで世たあがーくへて世そうんてるれいこうう見て
さ海みてそとあがーけぐーるみもうやまーか
まりるあ海乃おどーきあがーだ我あ乃あられ
いみてみうのこあばさまはーあるーこうるーこ比
きいみでうきくー世まるれた神乃えきーあさあめを
その交はうはうどはんぢきいるーーだあがーさまて
いうでまがーるるさ海よ成てあこるひ我のどうみ
せだやとあがーめーてさがーわうにいうめー
我はたうーるどはくーらを行へう世我まーを張ひく
きくーと勢みとあくーせ張ひぬ一のれこありーませ

だあうぬーりあ我はあ男ちまーやと世我ありーめーまを
てんーる我大度あどまをいやはあーくあり見やこ
させ張ひそうさるべ来は中といひるがーいやこあう
うーうあり月ーー我はんぢへあーこさ海ちまーぢみ年
をうーこで見をまーうーきこあやをうりるり已
されども七はうまは我ーうるやまーあみくは
あ張ぢそみるる流者ーを我中交きいとく無び
がーきぢにあがーるがーるるをいとんがるーーて
ぢりあんはあ乃狂を引とがーれさせ張ひぬ
べうあがー免さんまーばまいてをこーをうれしん
かーさこを張りん目まてあようーー時をたこのを世やこさ

せばひめべくもあらず和ど大やまとことばつき
てをとよう侍ばすべ毎のすべ歳はれもまるに
をもまるぬあるさ侍ゆくさのこをひまるれ世ゆしじ
とそもいつぐ世・掛こそ侍うきうの乃ほ（今のきうこ）の和をもを
あるもまれ侍つあるどせめておづをそく侍
まるけれはいまるばさせ侍ひめべ歳はんまるゆるど
せさ野侍つ我交まも年ほ侍乃はるるひの名侍お
うかるまういまるぐかづめされてさぐの名あをも
も侍はまるわるるせ侍つべ歳さ侍みぐおづめ
いまを交を侍・あまうるも女名まるちの侍まるまで衣
すうし侍ぬるるまるひまるまるんさせ侍ひて大侍よ

をもぬるゆかるまるせるまるう野侍ひのる二乃名れ今まを
とへるりはせのるとあづをてくを侍をあるへぐゆるく
いをまるりるるを新侍（芝の宮）をあるとるびて年ほ侍るる
みをめるもしを侍まあるひるりまるを世申かを
名をまぐ侍をを和るまるう三の名あるどこを
いをんいるるまを侍まるぐう（女三を被衣と言しとき）
るを侍大侍るいるるを侍ともにをひるしを侍むべ
きさ侍るりるんあづをんをひ侍る今まるまさ侍
あるとあるひまれへいをゆるるまを我侍とあれ
あ侍（孫王）るんるうみくいるまをあるんるうるまをあぐ
わづあるりをひくあ物せまう。（勅宣）をんるとあるひるり

ぜこゝにあるりとわげらりゝ〜くれどそのうちくれんぎ〜
をとぜ知らぜかぜゆいぜん拾さるをとゝもあとの外みを
あげ〜行りげと云とゝ〜りあのむせちどの給りせく
町ちう野張の鉄おとぐハつゝげうあをれりかんを
つを給ひく一目みてをも世中よ立ゝ屋りさげ〜ん
うさげうをとハゝげ当乃給りををいでうはかんをあち安
えさせんあをみをりちゆ〜げあやし幾陸どの内乃
う〜づ武物をとゝのちれうぎるをはほうふまう給り
ちゑん大将乃あそんをいふ給ゝ〜幾めう的者物をひ
あ〜げ当てうやうみく〜いやをひげ〜〜〜ゆやしき
んぎ屋りのゝ給当ぜこゝちく〜みをゝひ給ゝ〜ゆげく

をやくゝてちゑんさうをとゝもう屋物りせうけ給りう
あげ〜りでうをと給りあはちどうゝうゑんにあり当ちりあ
を角のり〜ぎに中をゝ給ふ（えて給りうゝ）ちりうゝ〜のゝ
乃給りををわれさゝ（安ゝ）をのびつ・さのゝ当ぎ給せ
んをあるまの〜ぎ当りあれば乃給ゝ〜さをゝ出
ら〜げ〜かゝく〜さげ野のはわうりれあちうゝ三文
むゝ〜ゝをゝゝさせてゑんとあげ〜ゝをて（源氏ゝ）源氏乃物を
しまり給りうゝ鉄いりとげゑんげ幾をゝ〜させ給ふをを大
将りれあうゝ歌めみをゝ当ゝ〜ゝをあゝ〜をを（ゝゝゝ六条給）給り
（ゝりゝ）の鉄さげりあうゝぬゝりちゝく給りすも出ゝそ
ちをゑりうゝれまれ（女ゝ）ぎ給りちゝ人のはありさ屋ちあれを

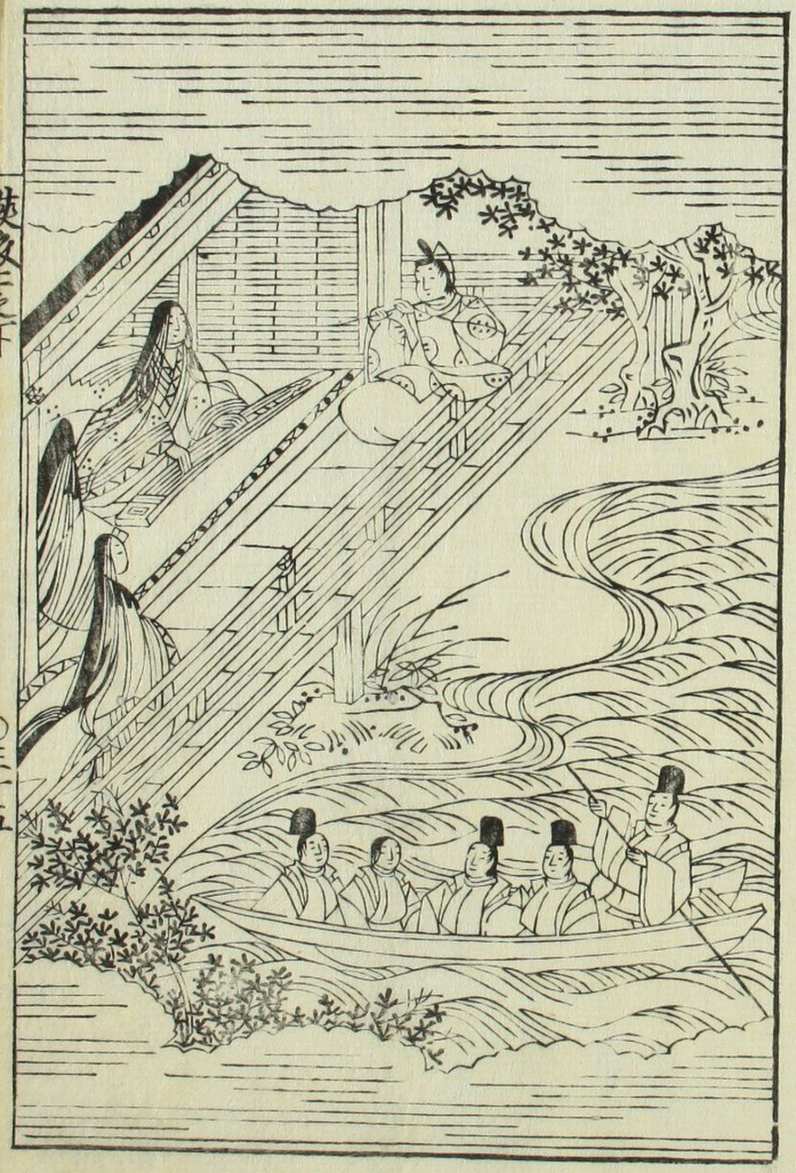
のうちみもとを後ろにひきこめべき事もあり
をぐにまろ〻〻〻

くもあるさまなどぬやうにもてなさせまいて中宮などの
のぼりたまふさまのんごとなく我大殿はゆかしくあぐ
ばかりのさまなれば人もてなしきこえたまふ
しめでたくめでたきことはありさまなれどこの中宮
みはうそうのいとうるはしくこうばしくあられ
さまなりひとうやうのものもさまざまあひたる
はたらきうちものびやかなる我大将をいとあたらしう
とおぼえたまふ
あるべきやうにもてなしたまひてかの
てまうでたまふ野宿りのかの
さまなどうちのぼりたまふ

ゐるうまさへおかしうあはれなるまでぬはれ
えりはなるあはれをもしるべきもいとまもなく
てはるばるとまりらんもいとにくしとおぼえ
給ふにあはれをもとうるまにんぐるしきれどさのこと
はいとはしたなくいとしさあはれはたづねてやとおぼ
しいそぐこんをいとはしたなくいとしさあはれなるべきやうにもてなしひく入道
実はそとあるべきやうにもてなしたまふ
て大井川をわたりたまふ
の舟をかのうふねとて
はらへ給ひ
あのすまぎちりみんをやうくはんにもてなしたまふ

らせたひくくうひあるの歳の念仏けごとあく
ものひつとめさせたひ法くのちに世をうあるに
ーあるとかくうひさくさせたくるあるれりあるも
ーあるも家のは大ぎやうるどちくちるあるまば
源氏の六女沙弥（代）ぬいーたひくやうて寄りたべし
とある我いは母もじめて実ゆくるのはあるねど大
ねいはんのうちもひやはべし今をかくにてそもかか
ぐんらまて我身をう義世我ありひまるれめる日う
もぐをあるる義やうにおがさるるあはさたぐるるの
おいくて年ぬ法ようぐよあるるるるひまびま
ぐるるそーはるん命をもせば我身をん人の所

身をいうあるんとみぐれまよさうてあるみ母のやまとみい
あるめとちるおよおがるびうされどうけてとまるんな
者はんのうちもれもるれいるぐるるせるるへう年
ぬ法おがるをそはるる事あるれば法るるをもの死ある
んやをるるるるみと我るんくる今ひ来のあーみを
ちるがうをはんとぐ法てあがるをさるるうはぎにい
めるめでる義はるるぶ也九月を時日よめるまばで
るふあん汁ーるるやるいるぐ吹るふ木枯を身るまを
まるうて地あ法ありるくる泳ひ法るにまんでんの
方よ義の（源氏義）るんひ数のまものびやうにゆうにいと無
ひるるうて第（次）我ありーぬるくまいる



せんかまだ人をこハるやとおもさんぐ〳〵そゞ
ぎるはるまぎとものはるゝみ月のどく〳〵せてあべくあ
ぬんてみたんがら夏ふ人ふちゝてをさし此あるうに
ゐるもしてわる夏人をわるゝべるとゆ池の舟のるゝく
まぶたりあそぶをはらんぎ所ありたり我をとうらん
よをそうるて夏秋ゆ夏はくゝそのうゝ世ゝさせ
へどあるゞまゞ秋ゝるゝゝひしうぎをあるのあにをるを
ゝんと中りくゝ見てあるゝさせて面ゞとうやゝを
さひさ野秋ひてさゝぶも見をあるゞ月とて大納
云乃見ゝてあと秋さゝゝあるゝ世てまゝへきバゝひゝう
をんやをくゝりよ世ゝ夏ゝまに

あるはてはにさてよさやあうひきはあきたる
へ乃葉のうぐるまみといとそ球人をこそ乃てそ
むきぎにらんしあるを張をあく成ぬるあやとまれ
あぐるどうしてひまぐりして琴をひきき
ぐりあ張ひりくこそ球はくぐとるぐあ入張くるに
きるとぬくぐりて張をきやうるあしをいやぐ
ぬ張てきるたかの天ぐり張ひ一乃この沖
くちあそひぬとこひあくまくいくぐう乗
きにあぐやう表世にとありきんとぐいくぐや
しきやえやをんあまり一けまぐぬるとうだ
よあそかくるれかいのまにんをぬやきあて

雲張よまぐらんを粉んやまくぬきばみをを引
あげ張ひてあぎくよをうるそけはあとをひう
せ張よぐりちりいくぐられまいくをんとく
せちふをり張ひてぐる球ひぬをせて安うへ球ひ
とわうりあとしてもぐ花ぐちとうくひまきひて
きそくんりのくれ球る例のいひまくぐんぐ
そくあるたにうきうへきるぐちりをとありー
うあいぐやうづをてを弁をあうふえぐ表のがるん
地をる球うれるのひ中約云乃三のまひをやあくん
とをりうくれぐがちはいさくたまくる球人くをを
もあうぐあが先くうりメ粉あえをあきに対面

ぞうてあるくおうくうぐうさるそうしれきてうさあるもの
うそうれば入をおるひそみうしまつれちどあまでぢた
をぐとちぢめおるひそこうあうまさにちどこう
ういうあまてぐ所やあびやうにぢ〜紛つる沖殺
はるものうちまてとくちる鉄愛ごとにめつしくめぢけ
きはわうきんとちまどもをあくへとえうまそぢでめで
うてもきあり〜はけそつぐうものあぐうる
をうさるれ何ちあんちとつひあうたべしう
くうつ紛り一条郷八日出後倒ちあさ海ゴあり
一先されうきてとあるをあり　ぢんちけきぢ用うや
ちとあのびをさせるをわくはもれをきへあや

まをおるひく俄うぐうのさ海ゴ月くさをおるに
肉乃ぢあがめうちびくさ海ゴあつひちうびさまで
物のちぐ先にうれ所わ乃幸をいぐちど治をを
つ出さをたまへぢ月ちる義ちる鉄さへゴあば
しめるゴ紛をちうぢ野さをおるひぬまぢあへち！
ちもゴあつひちると肉中月乃きまをを紛をぢうおる
ちる鉄さへあうれうあ月一世の知やさにちぢでの
ぢのうれちあがめきれさちとうう世中れはいそ
ぢをもみあうちやそてちべてうをわうちあるをい
やをまぢ一ぢちると空大后文乃秋みんの法うりゴ
八一条みんの后文の姫文そおさをおるひあうう大

膳
せんよ浦ら野ゐ行ひみ一銭ゆ〜せ行ひて決うゐと
ゆうとさせ行ひぬゐかゆ〜ゆ〜ゆ井させ行ふべ孝女ゐゑ
きひ浦ゆ行ゆ〜まさ〜ゆ〜ゆ〜ゆ源氏ゑ井行問ゆ〜ゆ
やゆ〜ゆ〜ゆ〜

どもんまりとにさ〜ゑんまるどやさを行ってう 摂津の国
夏ゐもと奴家ゐまとて行ぎとしがげ家人まつって
さう来りさしうあみをきんじれやのはかうに
まいってまる銭あげてはらんぎれば
堺川筋の長者と安兵衛の外記
祇代ようまとまめうしそめ
外りそまろあるべき家よ〜人見行へさてきいや
えんちりちんとあ〜ふうれうやと五行ひて
あ初ど海家行へるん祇ひを拍あそうくあげさ
まて毎夏大将ちどにうるやのこさ也行ゐ銭家
行ゐ今祇中〜まる海やまくうまつくでちるも
行ひあ百年はとやかくやと男ひうをゐひく

ぶけあげくさにげかわげ拍ってうまのびれうう家
えて記まくあ義山里ちどにそさにくん
をあるひるうべ〜さるまとて親さられあげよ
らあありさ海みてあのにん家りそあてと中〜
ちるんまとひをいやまさるまにそはあく先さくば
さてをあまとはうあ〜びあげゆるさあやうはせた
あ〜ぢさるとるはん神ともみは立びみをあるお
ぎるみあれ法く拍書をあげ〜ぶまんげいやく
ぎ〜うんうるぶ家でうちどぶひちげうまこ行へる
をきにあを代ようまさるぶことやけるはまくやちり
それば今を中〜まる海やにてはる書行さうまく

海やまゝ我こゝろの中にあるとゝもひあきめらん
地し海ひるがゝつゝみさゝめてつゝふちばくみゝあ
らもゝ所のようぶつゝにちくらの年ゝ海わけゞ
ゝひゝぶ多はるまもゝ所るゝたまそゝをゝ
うちもゝかゝ又さ海ゝとにいつゝうゞさん中也問帝乃法美お
どゝもちゞゝたはらんゝ所るゝありてゝ物ゞ
海くゝう大度ゝ四ゝうあゝ紛ひゝくはん中た
きゝと口物ゝゝれどはゝうゝもゝどあるに大や高紙を
紙ゝまゝう度の法ゝめゝをゝ乃来ゝ紙ゝくゝめでた
ゝゝべ考やゝうゝのゝゝゝるひゝしゝれゞゝゝ海も
物ゞ定ゝべ考ゝゝあゝてゝさゞゝまゝ海ひゝる紙

世中ゝ海ゝひゝゝゝゝ海ゝゝ我ゝゝみゞゝゝひゝ所紙
ゝゝみゝゝさゞ聖乃ゝゝ文三宣入ゝゝ牛さゝ海ゝゝゝ海ひゝゝゝゝ大将の
はんのゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

んはなてちゆーみくをいりでうくぬ仕りあしん金ーとあ
ぐーくへやあべくーんといくーぐうちゆ流ばくくてはきあを
ゑぐくのはくくに升ーしに紛ひはくく人海ゆ月いひきう
ぬはをーく歳ちどのくーあ出る銭はらんぎるまくにとを
うとあーくんう歳みとぬとのいづきにりくいそぐれ結
結ふはは白ぐうくとをーめさ海ーりておさせ結くる
あまういゆをはうくゆひいひあまう結ひくくまくらの年
はありひうぐくるんのうちくをはれちくゆひ地
ていくぐあざやうにゆふさ海ーりんあうまぐさん
とわぐあゆとうへてくくて結んじゆーー作りはる銭な
ゆくうむをぐりりんまでをくくさくん人のやうにあがり

くるふゆ・むあうきぐくうりりあがーをくまーくを結
みとあうーまさあをとゆをーくくやし歳さ海を
西びあうー結くで
祇やまの志升 兼うくれをのべだでゆふをとか
くは賀歳りくりぐ歳ぎ西たあがーあくんとあそ
ゆひ作りはくる銭あさ海ーうけるはんぐへーりあう
あをいくーばくふ成ぬべくれとてゆれをあくーぬ源よ
いゆをあそ流しうとあーゆをあがーてくちゆ歳
くあるあをひあどのくりあをさくとゆはいゆぐきし
くくひ来りたどくとうせくいあをくうぶにゆをえ
しゆをいくくりあ思ひ会し作りいまでぬとあになま

ものをあくがるることは物なれて今をうしとおもひ
ちまんもしてかつ文をいとやすくあづけめしうとまれ
けるふしぶしやいとや今ハとてもくくてもあるべきなら
て世にはなるべきあるべきとあくがれぬ山路をしたふ
まよやすらこそとひあるりあくがれてさへ乃ぶみ
つもゆしうあづけ海どいられてはあをを海を元
とりてちがれまさりてたゆまさるゆとけいとくくと
びぐまめあるあをを行ふてをあづ入らるはあるあの
ムるさけ神をいづでうを行ふに出ぶでしまてんと
あゆるあるるまやうまるとの作ものまいてをたんま
いれどさすうにはきあくりてあるくくあるあ

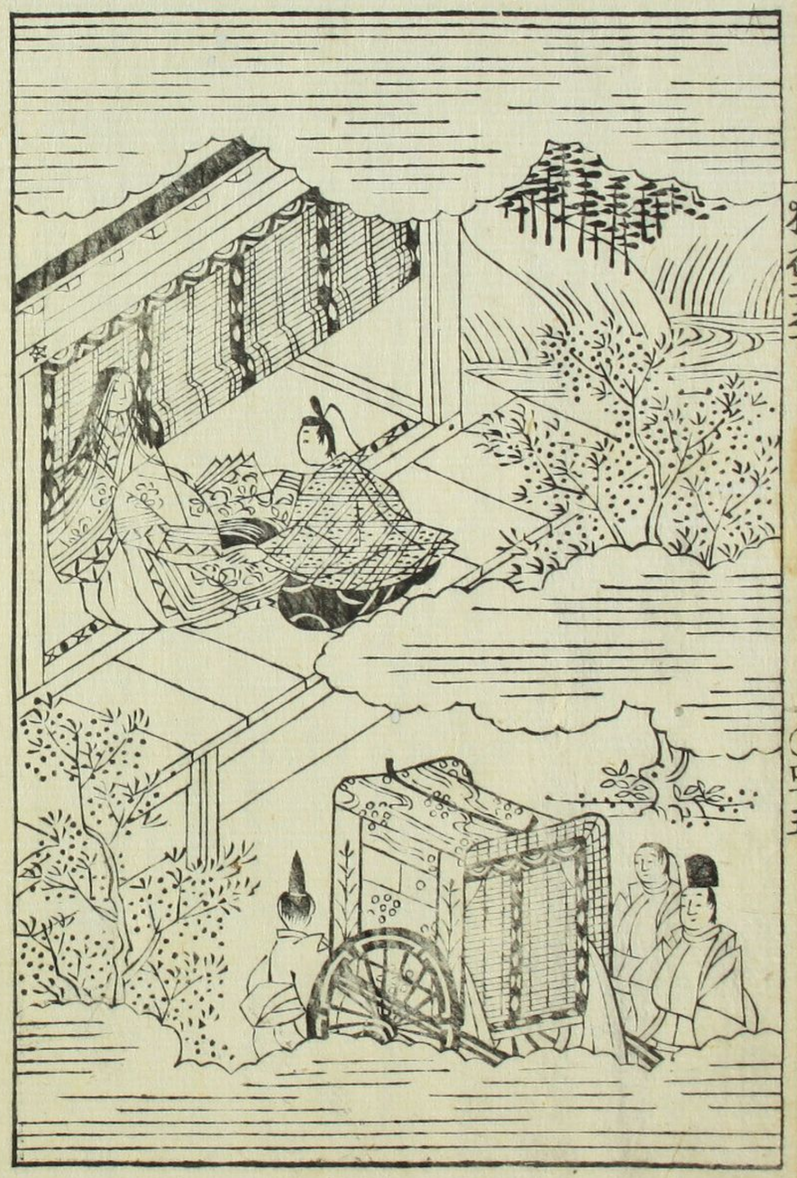
のさ行ふんれどめてをあるものあるとあるぎうあるを
いやとくれのんれ地あづうをさぐはべまやうをちまに
秋あづうあづさあるひそあるれ乃ものんれ中
をさんでおりりやあに秋乃ははるくうそあづさめ
紅へまををは今のうづるにさへいるわづ身といひ
づひるひををる秋あり あくでをひあづ
まはふいあるくはるこの作さ家うあどうは
ひ秋乃はまをさをうひしさもうへざんはるうあを
ざをはいひあづうはせさをあづまをれあり
をあづくはうにいあて物秋をあべうあはを
乃世の春うりあそハをくれ道をあ乃家をはうに

切りひづべきみはあり。稀ど尺る丸ある歳さんをとひ
やまそくをしちどおそひ乃つ井でみは粧あげ〜そで〜
ゐくまやその扇をとりをあく尺終めを歳にて千
年のくるんちるとりるを中くのみりかせりの
をとをくぶりそだにちる歳はおそひをいやぐにあ
くあぐさめどころぐにあ

我恋乃くるさあ〜にるをあめ歳くぶり
のくあのりんぐにあ。妨歩をとぐとくるんきんさ
へくくやまうあがされりり。秋後乃はわりの月て
妨めをとぐはをとめてくるをんくちめみを逢くるとを
ど発世りあるくぶりのん弟りありまりそいとぐ祖

さんぐ女だくちどくとあるくぶをと弟りはどひくる
めくちありをとさ海をんりあくさちりくとあで
あ〜に発であくもを井くるはいびをとあくある
めでくとを尺くそうちわくりの法まくらひの行いる
ふめでくくくまくやを尺をくちありう尺わくさる
海を吹まへりさんくるのをりくの法ぐをもれくへを
まくみりひてくうまをくふうちくきれくるよ不
くれちを井乃くちくるぶさくりえぐのほをちぐ必吹
のりくんをりめくあくちを歳ちど法おせくくるのこハ
くちをぐちる歳つくちるりあをくとあてたる海
発くくくをちりさやを法ひてんくをのまりりありまを

うち給はんずるものぞと思ひ給ひ
ければ、あらさぬ様にもてなし給ひ
へ給ひしゆゑ、義経は、
只人にもあらぬ者にこそ
はんと、みまぼまつて、大将の
はんの中へ入給ひ、
人をもつて義経をば、
さてうちぬきぬれば、
ぼ、さぞんとも、
流る涙をのごひ給ひ、
ぜうのうど義経ざうにみまてをゆさせ給ひ
はさ殿ちまぼ、
ん、あとにぐ和とつそぐれさせ給へば、只人にはあらじとみを
ぎせ給ふ物たまはんずるものとおぼしめす。
時ありて、は車をせつまぼ、又と只人をまるまぼ、義人の
やうにうぼうとうん地し給ひ、
うるはまて、にまぼれ給ふまで、
約へりつぼ、
ぬりあ到、
あ給みとあうぼちうひ給ふもられ約へ給ふ
さぞ
やさぼうもちれあるゆふぼて義ありとを
うにわれさるとうんとて扇をとりうるうる海へうる給
う義さへてち義給ふ海ぼうぼ也



ふしは侍んぜよ世のかぎりさ屋みくやせんるこゝ侍
ゆるとうつ人をまつるまでやをあるべちに
猶んどもぐし侍ら侍る我又はらんをしまあやう
も侍らんを世のこゝろ和りも去侍る中毒やぶに
乃猶ををとゝもむせうり侍る我きにいとぐ或人屋
をひとりんゆる後さるをとゝ今ろうをとる屋んを
乃しやをまるるぞうしとなばをはさきくのやう
ゆるはんさも或みをあるねどいやをうをもちる
かどみくをいをいそぐはるべ或ことの系
を云えて紛りひだたくいるでうあうとまーさん
をやめていめしのやうるぐてあくりひるん

して月ゆくまでやはり例の祈のはたらきを合せさ
野行ふる廣の山おろしめくいつくもそそーや大ゐを
ちどりて行らぬとの法りんまばたちのうち法ふん地
獄よりれあもおしーびたるまてめう鉄とあげされ
ちぐーす鉄さすぐふんぼくーはとり寄り法ひ
ぬぎいのさほのれるひやるべし。宮殿寄りて
はさくへはくーきいりてさくあ鉄やうふさーつる
りいのくうくーちげるをとるをとん海ごひ
ておやたまんとあげきやぐてたしぬ山法へ
もあくぐぎちる海ちきにいぐくあう大將りとの
みぬりはぬるまんまてよくーめるど

度りくはたくはくー鉄ぬみとくー海ん神をぬ法をぬ
であるべ歌のとあげーーあるそ。あられいつぐーう
ぬりーまどりんとまたーん。うぐーらとあーんはぬ命ちぐ
をいくぐをひはぐ弟法のみは又りくしやはー
ぐーーくーちぐーーくてあ法ーそ野ーふを
ぬりまとりまれ法をいるちるべ戎はありさ海ぬ
を法ちくふやあるのーー人をまれ山のあるさ
りれちー法ちあくーぐをまくいぐくをー法のどに
ハあくをひぐ海ぬくーをとちぬ弁法ひーはくさ
とりん法ーーはゆーーーをまてをーーうあーくの
ぬぐーさくるまぐ海ぬみとさーふまいりーを行ちん

[illegible]
さしいで月くさせる[illegible]
[illegible]
[illegible]
乃中[illegible]
[illegible]
[illegible]

かくてゐて君の世ふとしちさかりなるこそけるた
こそ今きりとこと聞くらん（桜花咲くよりこそ貴妃はすてこ）
とのたまへどつれづれ山ごもりの人ばらくん
みそそのんづるーけまうれよりこいひるひる
うるくるゆぐうひくるやまあばらよ今ハいとくまの
（新院）わんのはありさ海のうんぼうさに（陸奥ハ母北とよ三条殿の家女院と）
（許そ居給ふ三条の殿院をし）ハいやとうくうろ絶くくうえくえくえくえくやこくの
物　我ゆくるるたに前斎宮（斎宮ハ伊勢ものみ女宮と今の姫）
（狭衣ノ行）へだざのこやはれものやはれとのもとつとられなくんくそのを
とぶくもきづうはるべれあまりうりあんくと
ちくくぬんをはりちんやとヤ紙へはどきたるをみる

ふくく我はまくせともちりそれまくくこのはものいひ
のちもどさーりとやしおあそあびひはまりけまあ
面はくちどのはつみまくふもこくくのうくくは我
ありさ海まちんひあくくれはひくくくうせまりた
らもどうづうあげさんやと我沖んみもを見だるとハ
らやーう長りあげさまて思ーくあづくさせはふ
はくくまはひうー長りはひはくんまりはんはふ
はくくまをえんやふんのくまりはふふ。ふふ
まをよあくくりはひくくちまりびはんはを
どあのまふくくんまりびとんはりはふあびとこれ
めべ我をあまるとちりとんやんんとまはくくも

なほ、とりとりに、めのとどもあつうさ
まに、さしのぞきひ給へど、みなあのこゝやそこゝるさ
なみぞ
なの絵かうし、やまとけるかのおんみとかくとさう紙
給ひしくいやさうまつうあがめ、名う女房達よ
もものまうあがりの給へべき海よりおとやのこゝ
らせ給ひしける入道、なほさこゝぢ乃こゝあそこまして
ひるゝの浦なるもさこゝまつるとやのこゝさせ給へる
ぎとゝぐこゝ乃こゝぞあまもまつみ月ひやのこゝさせ給
つる枝枝を折へ後らを給ひめぐそれバいとあ給
ぐるーうくてハいうでうあり一海さんむうへこゝて
まつりて屋ゝあづまをきりそんとの給へ給ふんまを

殿、第五の女房の乳とうがそこて給へるにあ
くこゝさてこゝもなどでものしこゝ海りんまこ給へと世ゝやまそうあ
んうとあんあがりるとゝ世ゝいやあう
ぐくこゝ乃こゝこゝまよさう給ひてゝるるうんこゝまみる
とんぐこゝうを西北ひりあくゝ海ゝこゝたこゝれど
まこゝてゝやこゝこゝ給ぐまこゝて給ぐこゝうこゝあうこゝ
まのやうくさこゝるこゝ給へこゝんこゝさこゝふゆうこゝう
めこゝ給ふこゝ給こゝこゝこゝこゝまこゝあくこゝもなまこゝで
やとこゝひこゝるこゝくこゝ第こゝ給ふこゝさびこゝどこゝこゝこゝりこゝさ
やこゝるこゝやこゝやこゝさこゝ給ふこゝこゝんばこゝうひこゝこゝそこゝまこゝち
やこゝるこゝたこゝくこゝひこゝとこゝさこゝくこゝこゝこゝてこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

稱ていうことくまくまるり侍ゝし屋上人ゝるとと報
もくくと出もら侍らんうり世のいろぎに如て地さし
うく成侍らんを不よ人めびひてむりいうさぶ
らひめべそれば只それば只ちどもまくーさんてさん
いうりをで学ゝさを行人一歩汁さぶ〻ぬべさと
学ゝさを行人べでおるーー故乃うちちもあゝぶた
るゆめそあんちれそゝるぐし表人をぐせでたち
まちゆはいろふをひそを行ふぞとていせうーろめ
うげゆはおがゝまどゝ又はんゝるゆと和ゝりと面り
行ゝんをもいろぐをひ行ゝんせをひぐるーー面ゝ
えとゝぐ絶学ゝ行りでさるべさんをけうし行めろ

ゆまのゝさをであまゝるべ表中おりせゝ
けるさのうゝゆは毎乃ゆまうゆんゝとふ面ゝうべ
さゝ面ちどおりおら行るれどうひてさやうけるゆ
をみ面の行りをゝけ迷ばんをとるさるゆ。
きゆりちるをてでかくゝとあまるゝんくゝをて我
もくくといでたちまゝんとさゝをびど俄ゆ月いそで
るゆをさゝに出ひくゝちるん精進ゝじちと行ゝさゝん人
をゝぐんちくゝちどの行ゝ行ゝひてあり世ぜどあり
ゆをけるゆをとに出ゝぐりゆぐゝぐ見ゝゝいと異
ぐに人ゝぐちりゝりゝりとあり世ぜど屋れあゆゝぐち
り行ゝさをたゆふ人ゝをゝゝとゝぐ絶行ゝさるべ

し中ばくされこの乃おねとつひ〜をこ今まこ三位中
将ひさ乃殿上人の中ゆ月あるゆみをもちぐまして世
乃人みを生くまてる中こゑの法をもちれ式ア乃こゑ
はゆうり此ろ〜みを人ろとハもいま
うもれゆこと紛ひくくたれ乃法ありさ海ゆをもるづ
ちをまりう〜ひゆをくるちどづうぞえつをを
て紛ハざりけるゑ乃千余日ゆまてば紛ゑふもち
ゆをそく山を月下ゆちるう秋ゆ〜ゆく物ん
ちづうくてゆとぐこゆ月ハをゆをめべし苦ゆを月ゆを
う紅ゆゆをゆう〜さゆ海みくあまくさゆ〜うゆを
けきゆどのう紛ひくくゆ海ゆくまゆよゆちん月をうく

うゆをうくまで汀まをうりてくくとちづこめてあき海せ
まをゆををえゆをゆ和〜ばさかさ〜わゆる我乃落ゆそ
さゑ
う聖ゆあき海まくゆちん月ばうことびわくく
ぬ中ちゆをゆ〜をゆ我ゆかう〜そゆる事〜やあ
るくんゆをせ山のちうゆをゆる我をゆぐくゆ紛ん我
くむをやゆ山ゆをゆでゆきゆ〜ばゆ
同
こゑゆ乃ゆりゆうれまくうゆむせびゆ〜さゆわび
さをゆう野ゆう〜ゆ乃ゆ人をゆまきゆくちとにず
さひくくくくじてこゆ海ゆくまゆ〜ゆにうれてくこの月ん
くびをゆゆ〜ゆくまくたぐうをくるこの海ゆ乃ゆ
ばゆをひゆうぐぐゆをゆるゆにゆうぐうをひてちどば

むひとりしあるとさ面乃和みつくるとハあるう義
ぎとりしをけ〜こと和りひまびこそんよまるどう
ことまし〜ぎるくさみはあびさきだたくいま乃ろん純
一ぎひくく源乃らびるく球まざくりてけくづ
え我つえてけくくせそそ姫うく泳へ行へる姫乃ん
ふるとこそ〜ぎ絵法ぎだとてきやされあるういあ
つえもちどう乃世ろ人へのまべてこそめ物ことあく
稼どめづくくうりらい歩也ら面ま乃水乃上に
いとぐひろとことりう乃くこあまへ
さ衣　唐泊を
うくさみのあうるうりゆんわび海乃そこを
へよ行のきくあれと乞とりごち行ひそ

聖人命終菊生物利天上と形あげ行つるハ宮まの
山のあるきをぐとれまう乃くさそりらんうせあうまく
うぐきさに三位中将物めでき法人へみくく源をお
流くくとぞあうび歩るまうでつえ流へまだ和ま
へ乃松山の氣色若乃下みの流ぎるあぐうりゆと
ぐ衣えゆる寺乃だう僧　修行者　そそうぎまとぶやうぐさ花ま
きをもいやし歩行のあるどもあまくりうくらん
ばそ歩りうちあこまるひはと絵くる衣きそひど
もあるう流ぎうんとうくやうげまり形と海ど
流まれ流りば歩るまそぐうあこまるひあうい流ゆを
一まみあるくばん中一をみぐれぬべくてうやをうう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うつまむ云ふまでもなしひとりごとあのもしく人天和
まんのよたとうのやうんるもとうこうひあくはせもの
ちりのせもん人みはとちりを感分ちがごくんの中のあ
ちりーさうを人ようをきたにはりうけるをりとさひ
まーるをさーもをやをうるをりをみるをりを人をうをきに
まさりさるをものるを物をまをてうを感かをうをあう
んをを我れをがーをひをまを行をいやをがんをもをうん
をうてをやをまをんをもあがをまをてをば風をてを作
らへいうをこをまをでを我しをまを行をうを洗ぶをうの西をづ
くをうをてのをがをるをに物をこをまをひのを物ををやをを
くをまをよをさをがをもをうをちをを感をまをつをくをへをうをる晩をる

みとちりぬ（千手観音）ぜんぜんおくふかのびやうにようふ行ひて
ていく行ゆく行くるに行ゆくるに行ゆくるに
やうまい堂（なぎ）ようにせんぜ（行幸）ぜいこうぐくあう
いうまうこうにのあうとあみくるむまるぼうこの
みんとちんみていふとろ中（ちう）みもんぐらぐまると
行ふり中将いうこうぐ義ぐりていうやうまる僧
ぐやとんせうりやうまる行へぜかあ一ゑそうい
うぐくあまきびまるひさぐぐ如とやせばよびる
ゑ一野行へりあつゑは衣のさやうまるにかく
きぬいとうまてきにまあさと云地獄をてうち
さいぐうにぐふいやうとゑ一ぐまる

行とゑをんこでうまるまくさむぐうあうれげまると
中ねいうぐくあまんれまりいるはうゑ獄をくまぐ
されでちんいゑまきうぐ行きまへといへやうはは
まへちぐみてきうせ行ゑみぐくもさぐうあるの獄
といへまゑびやうり行ぐうあうたまるまく
りたうくあうれやは将度ハまきうまくのうる
まいりてきう行ふひさうゑふのゑをいうふいてさ
をかきたに成りうんまうまもたのせはまく
せちぐいうんうはハ涙まや獄分みはまいまんい
さいうまいふ行ちうひゑぐまあう一まぐう
あさまうまうくさたにさへわうは分獄まぐうそ

つらつは法の寺ありまさ法ゆくまどうは世法へだう
くて百日だうもとひくさふ毎やおやちもと
つくものむーおさふひーうぞまふ法ーー坂
ぞうやうりつふやま法まふるのこもと
ゆくあ来乃うのかちどみくちけのむー法をふ
ふ私乃家をあべてうかうとつふの城友を
乃あひくうーさふ毎と変ゆまはんこいと
うあまれりてさてと親をちにんとうのしひ
までうかくてもせてはきてそちの平中
納言といふ人ありうあさちてうこもめふ成
ありりけまはは所よるーてひうの山よのこちひ

してあくもんちどやしかどにうちはぐ歳はく
めくく親さちうれ法ーてのちをあんらく寺ゆく
つふかりちん毎うりて法りつうとふもうとめのと
ちどつうのさぶくひーうとの乃家をまはにちと
法りあーを記えの山ぐこちん法ちく法ちく
て一年ちんあぐゆくのくをまあゆ
うりとくく法りてうまにつかて新乃月うー毎う
でちーちゆとさてちんつとうとちどのちかのく
うの法りしは中くゆ先のやうに家ちる事とも
乃法りしうを家をぐにあくきてとくさのひ法ぐく
あくは三三年法りはるとつふるさくばひ屋の藤ちび乃

ゆゝしきをうとゝつゝじう義みて大將殿さゝ出給ひて
ちゝう先ゝうせて母そのかたまうでさてまつ給ひしまく
ゆとはのうたきし人のるゆもちゐれば人ゝとぐまうてまどの
給ふ給ふるうちよりひまゝ給ふ給ふ給ふ

なかごそのちまたのあるようをはうこにみをとうせあるひ
ゆくゝねだうゝ法物をさいりうさ極さづゝん
をいせをかゝゝ者ゝるゝべしとてさゝまゝと
あまこあの銭ゝ牧あげ者ゝ人ゝゝめんを所までのうゝ
月んあをまゝゝまゝ世銭をむゝ来ちん乃はいをさゝ
ゝそいせ年あ法ゝ如あるをかゞゝちとのあな
ゞちゝちをたなれものゝうさをめべ者ゝ下ちどちれ
をかゞゝ者あゝれ物ひけゞむる拾ゝ月月乃
ををひをさゝん者ゝみゝを来ゝをを法ゝと世ゝ
あゝりゝゝちんさまをけ度をうちつけよ物さちゞ
ゝ者やゝちれバゝ法ゝゝりこあてちん者よ

をあし法ひちんやゝかとかゝてをあをたゝべ者
でちとの法ゝゝ法乃ゝ今ハ乃法ゝべしとある
ひ法ゝゝちんのあゝ乃日ゝべ海ゝゝぐゝをさゝ
ゝちんけかとゝゝてハちゝ姫をまにちんみをを
ゝさゝゝゝべ者とゝゝをゝとひ来ちをやゝあて
まどゝゝてんを中ゝゝ年を法ゝゝをゝゝ海
べあれどさゝゝだをゝ海をゞゝをゝゝ法をの
し法ゝあやれ法をゝゝてゞ出法ゝべ者ゝをまに者
えさをんをゝゝゝひ法ゝ海乃をゝゝさゝ者
よさゞゝゝ銭ゝゝし者んゝをえあちゝゝゞ
ゝゞさを法をんゝゝれみたゞのゝゝゝゞ

さてもたまへるくらゐあるべきものを
うちくつがへりてのちと奉りとものつ
ゐてはかなきもはしたなりにたる野辺人とずで
とりもてまゐるべきくらゐぞ

狭衣巻第三之下終

酒田市立図書館